

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 豊岡市

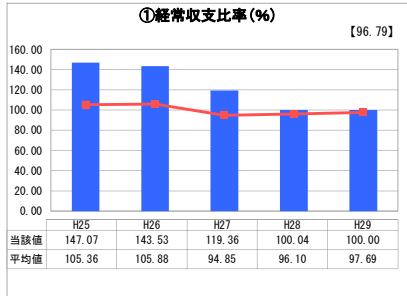
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	小規模集合排水処理	12	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	31.56	0.17	99.89	3,348

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
83,174	697.55	119.24
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
137	0.11	1,245.45

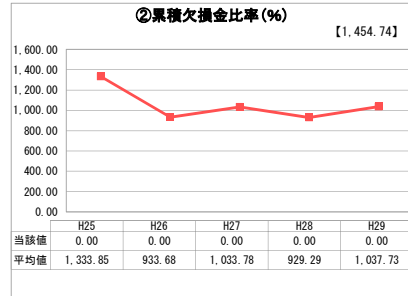
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

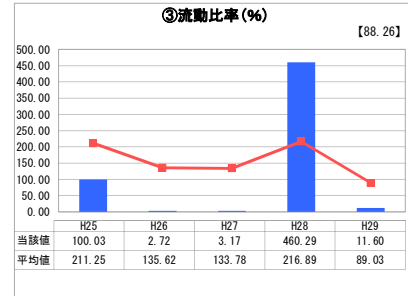
## 1. 経営の健全性・効率性



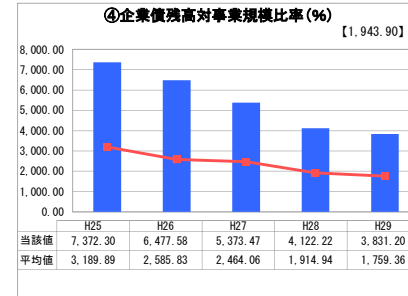
「経常損益」



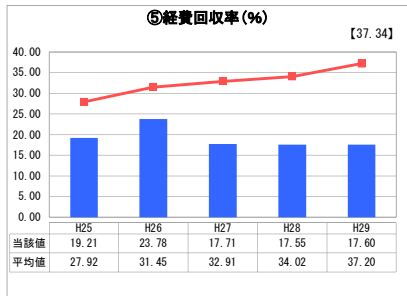
「累積欠損」



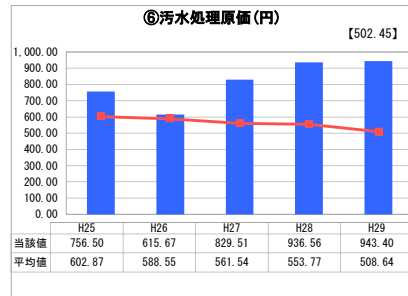
「支払能力」



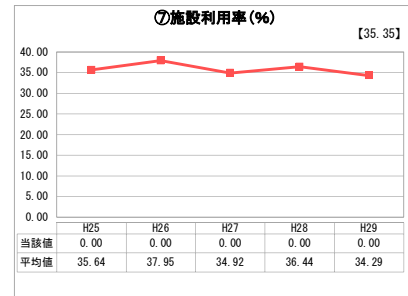
「債務残高」



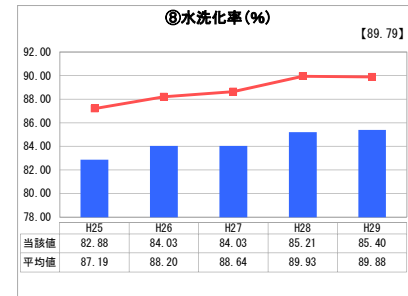
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

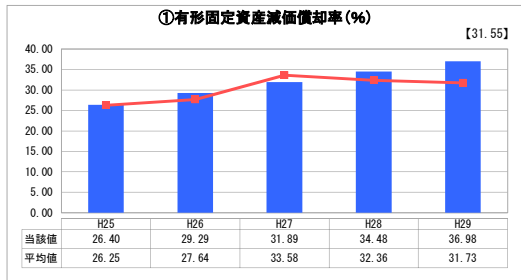


「施設の効率性」

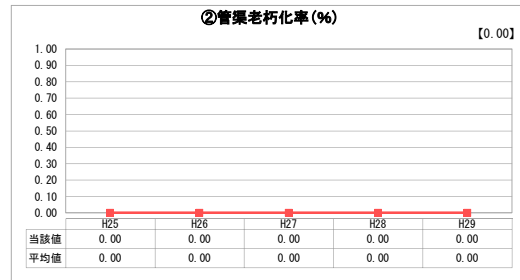


「使用料対象の捕捉」

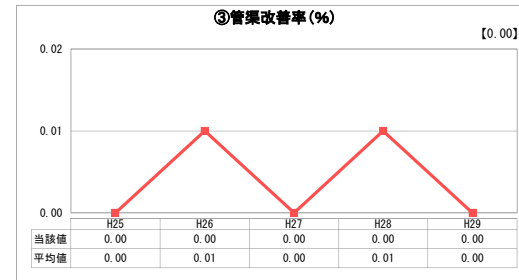
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は健全な数値を維持できている。  
 ⑤経費回収率が低いのは、収益が一般会計からの繰入金に依存していること、汚水処理費が高いことが理由である。汚水処理費については、⑥汚水処理原価についても同じことが言える。  
 ④企業債残高対事業規模比率は依然として高いが、使用料収入が増加したことで、改善が見られ、着実に企業債残高は減少している。

### 2. 老朽化の状況について

類似団体よりも償却率が高く、施設の老朽化が着実に進んでいる。  
 今後は、将来の運営状況を考慮しつつ、合理的な投資をしていかなければならない。

### 全体総括

使用料収入だけでは経費を賄うことができておらず、依然として一般会計からの繰入金に依存しており、独立採算による経営ができていない。  
 また、汚水処理に係る費用が高いまま推移しているため、経営努力に動かし、引き続き営業費用の削減に取り組む必要がある。加えて水洗化の促進も必要である。  
 施設の長寿命化を合理的、計画的に進めていき、効率的な業務を行うことが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。